

本日の課題ケース ～わたしたちは こどもたちに何ができるのか チームで考えるワーク～

◇お名前/基本情報

そらいろ こころ さん 小学4年生の女の子

・軽度の発達障がい/手帳なし ・母・兄(中2)と3人暮らし ・公立小学校の通常学級に通う

◇ストーリー

① 「こころにもうひとつ、居場所を作ってあげたいんです」 こころさんのお母さんは、涙をこらえながら、そうおっしゃいました。2020年9月、初めてこころさんが事業所を訪れた日のことです。

お母さんからのSOSを最初に受けた相談支援事業所「わかば」の出口さんとお母さん、こころさんの3人で、こちらの事業所に相談に来られ、こころさんの現状について、じっくりお聞きしました。

② こころさんは、料理やお菓子作りが好きで、よくお母さんのお手伝いをしています。また、外遊びも好きで、去年の少年補導のキャンプでは、川遊びや山登りを満喫していたそうです。楽しいことに熱中している時は、穏やかな表情で、長い時間取り組むことができます。また、お祭りやイベントで、幼児さんや中高生・大学生・地域のおじいちゃんおばあちゃんなど、様々な年代の人と接することも大好きです。

③ 一方で、自分の思いが言葉でうまく伝わらない場面では、ものを投げたり、相手の肩や背中をたたいてしまうことがあります。3年生までは、近所の公園や児童館の自由来館で、友だちと遊んでいたのですが、他の子が遊んでいるおもちゃをとってしまったり、注意してきた子をたたいてしまったりと、トラブルが多く、4年生になる頃には、同学年の子も習い事などで忙しくなり、お家で過ごすことが増えました。

④ 母には持病があり、ほとんどお家におられます。いつもご飯は用意してくれるのですが、朝起きるのが遅くなることもあり、こころさんも、3・4時間目や午後から登校することがあります。また後日、学校の先生からお聞きした話では、2日連続で、同じ服装をしていたこともあるようです。

こころさんは4才年上の兄のことが大好きで、一緒にカードゲームをするなど仲良くしていましたが、数カ月前、遊びの勝ち負けをめぐり、兄が傷つく言葉を、繰り返し言うてしまうことがありました。それ以来、兄はこころさんと接触しませんが、ご飯も別々の時間帯に食べています。

「なかなか色んなところに連れて行ってあげられないので、こころには申し訳なく思っている。放課後等デイで、たくさん経験をしてくれたら嬉しい」というお母さんのニーズもお聞きしました。

⑤ 平日に週1回、土曜日に月1回、こころさんの受け入れが始まり、一か月が経ちました。過去5回の利用では、上級生とボードゲームをしたり、スタッフとお家や学校のことをお話する様子がみられました。

今日は、管理者を除くスタッフみんなで、今後のこころさんの支援について話し合い、こころさんが通う他事業所のスタッフさんにも伝えられるよう、サポートプランをまとめるミーティングを開きます。